野外芸術文化ゾーン計画について

質問　野外芸術文化ゾーン計画は中心市街地の活性化に結びつけることが目標の一つになっているが、とても活性化に結びつくものではないと思うが、見解を伺いたい。

答弁　活性化の観点に絞って言えば、野外芸術文化ゾーンの実施によって、官庁街通りを始め商店街及び新渡戸記念館周辺への来訪者数の増加が期待でき、商店街など地域産業へ好影響がもたらされるものと考える。

　この計画は、新しい十和田市を形づくりながら、より魅力あるまちにすることを目指している。アートという付加価値をつけることで十和田市の財産、官庁街通りの価値を高め、空き地を生かし、長期的な展望に立った地域振興、まちづくりを行おうとする事業であり、商店街の活性化のみを目的としているのではない。

学校建設について

質問　深持小学校の次に建設する学校はどこか。

　また、その時期はいつ頃か伺いたい。

答弁　深持小学校の建設事業は平成十八年度で完了する予定であり、その後は西小学校の建設工事に着手できるよう実施計画の策定など進めていきたい。

　時期については、明確に言えないが、出来る限り早く着手できるように取り組んでいきたい。

建築後44年となる西小学校

中高一貫教育について

質問　平成十九年度から新設される「(仮称)県立三本木高等学校附属中学校」について、定員は何人で、何クラスになるのか。

　また、入学条件はどのような方法になるのか伺いたい。

答弁　県教育委員会によると、各学年の定員は二クラスで八十人、通学区域は県内全域となっている。

　入学者の選抜方法は、学力検査は行わず、筆記による適正検査、面接、調査票を予定している。

民生福祉

高齢者対策について

質問　高齢者が生き生きと元気に暮らすための一つの方策として、高齢者の足となる交通機関を確保するという観点から、国の過疎地有償運送制度を活用する考えはないか伺いたい。

答弁　この制度は、国が平成十六年三月から始めた事業で、福祉目的や過疎地での輸送に限り、白ナンバーの自家用車での運送を認めている制度であり、運送に関する規定をクリアする必要がある。

　市では、同様の国の事業として認められた福祉有償運送の導入について検討しており、これは、要支援者、要介護者、身体障害者等の輸送に限り白ナンバーのリフト付自家用車等での運送を認める制度で、市が審査し、審査をパスした福祉施設やＮＰＯが登録した会員を対象に運行する事業である。この事業は来年度実施に向け、現在作業を進めており、この結果を見ながら過疎地有償運送制度についても情報収集していきたい。

病院等駐車場について

質問　病院建設が始まったが、患者さん、あるいは市役所来庁者への駐車場対策はどのようになっているか伺いたい。

答弁　病院利用者への駐車場確保については、構内に駐車場を新設するとともに精神科病棟の前の庭を駐車場にしている。それに加え、周辺の駐車場に隣接する国有地を取得し、混雑の緩和を図っている。

　また、病院職員などの駐車場については、臨時的に西二十二番町の若葉公園西側に設け、患者さん等の駐車場利用の妨げとならないよう配慮している。

　市役所来庁者用の駐車場は、病院建設のために一部減少しており、その対策として常時三名の非常勤職員を配置し、効率的な駐車をしていただけるよう誘導するなどの対応をしている。

　新病院の駐車場については、適切な管理のためには現在の無料での利用形態を再検討してみることも必要ではないかと考えている。

工事が始まった市立中央病院

助産師外来について

質問　市立中央病院の助産師外来設置の目指すところとその仕組みについて伺いたい。

答弁　助産師が一人一人のニーズに合った保健指導や健康上の問題に的確に対応し、快適なマタニティーライフによりお産ができるようにサポートするなど、産科医不在の中、上十三地域の中核病院としての役割を担い、地域の妊婦に貢献することを目的とする。

　仕組みについては、助産師外来提携病院から紹介、予約を地域医療連携室で受け、同意した妊婦のみに助産師による超音波検査、尿検査、メンタルケア、乳房管理等、妊婦指導を行う仕組みとなっている。

観光経済

農業資源を活用した企業誘倒について

質問　農地を生かした植物資源によるバイオマス燃料及びバイオマスエネルギーなどに取り組む企業、でんぷんから作られるポリ乳酸による植物プラスチックに取り組む企業や市の農地面積の広さを生かした産業を誘致できないか伺いたい。

答弁　広い分野の企業に対し、十和田市工場等設置奨励条例の制定や各種補助制度等を利用するほか、企業誘致連絡協議会を立ち上げ、企業相互の情報網を有機的に活用するなどして企業誘致を進めている。

　市の広大な農地を背景とした農業資源の活用による企業活動が行われることは大きな可能性を持つものと考えており、重要な分野の一つと認識している。